

2

高等学校 商業科実技 (問題)

(6枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

1 会計について、次の1～3に答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

2 高等学校 商業科実技 (問題)

(6枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 2 次の資料は、A社の比較貸借対照表及び損益計算書を示したものです。下の1・2に答えなさい。

資料

比較貸借対照表				損益計算書	
平成〇2年3月31日及び平成〇3年3月31日 (単位:万円)				自平成〇2年4月1日 至平成〇3年3月31日 (単位:万円)	
	平成〇1年度	平成〇2年度	増減額		
現金	2,800	4,900	2,100	売上高	8,400
売掛金	3,200	4,200	1,000	売上原価	5,000
貸倒引当金	△120	△300	△180	売上総利益	3,400
商品	1,600	3,000	1,400	給与・賞与	1,600
建物	2,000	2,600	600	貸倒引当金繰入	180
減価償却累計額	△80	△200	△120	減価償却費	120
資産計	9,400	14,200	4,800	消耗品費	600
買掛金	3,000	6,400	3,400	営業利益	900
短期借入金	2,000	3,200	1,200	支払利息	400
資本金	4,000	4,000	0	経常利益	500
利益剰余金	400	600	200	税引前当期純利益	500
負債・純資産計	9,400	14,200	4,800	法人税等	200
				当期純利益	300

- A社の平成〇2年度の財務比率を計算することとします。次の(1)～(4)の財務比率について、それぞれ計算しなさい。ただし、パーセントの小数第1位未満を四捨五入することとします。
 - 当座比率
 - 自己資本利益率
 - 売上高総利益率
 - 総資本増加率
- A社の財務諸表分析をすることとします。財務諸表分析について述べた、次のア～エのうち、最も適切な文を1つ選び、その記号を書きなさい。
 - 平成〇1年度の売上高純利益率が5.5%であった場合、売上高純利益率に着目すると、平成〇1年度と比較して平成〇2年度は収益性が高いと判断できる。
 - 平成〇1年度の商品平均在庫日数が、185日であった場合、商品平均在庫日数に着目すると、平成〇1年度と比較して平成〇2年度は商品の在庫期間が長く、商品の販売効率が悪いと判断できる。
 - 平成〇1年度の売上原価率が50.3%であった場合、売上原価率に着目すると、平成〇1年度と比較して平成〇2年度の利幅が大きく収益性が高いと判断できる。
 - 平成〇1年度の自己資本回転率が1.5回であった場合、自己資本回転率に着目すると、平成〇1年度と比較して平成〇2年度は事業に投資した資本が効率的に活用されていると判断できる。

2 高等学校 商業科実技 (問題)

(6枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 3 次の資料は、同業種・同規模で、売上高と当期純利益が同額のA社、B社の損益計算書(要約)を示したものです。下の1～4に答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

2 高等学校 商業科実技 (問題)

(6枚のうち4)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 4 次の資料は、A社の損益計算書(一部)を示したものです。この資料を基に、ROA(総資産利益率)が15%に上昇した場合のROE(株主資本利益率)を求めなさい。なお、営業利益は経営環境によって変動するため、投下資本を一定とした場合、それに応じてROAも変動することとします。

<資料>

損益計算書(一部)

(単位:百万円)

営業利益	300
支払利息	100
税引前利益	200
税金(40%)	80
税引後利益	120

なお、当期の総資産は3,000百万円(=有利子負債2,000百万円+株主資本1,000百万円)とする。また、A社ではROAを営業利益÷総資産と定義している。

- 5 次の資料は、A社の商品取引の実績表を示したものです。<商品取引に係る条件>に基づいて、下の1・2に答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

2

高等学校 商業科実技 (問題)

(6枚のうち5)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

- 6 次の資料は、A社が製造・販売する3種類の製品X、Y、Zに関するものです。下の1・2に答えなさい。なお、いずれの製品も共通の機械を使用して加工しており、この機械の年間最大使用可能時間は8,000時間であるとしてます。

<資料>			
	製品X	製品Y	製品Z
販売単価	2,700円	2,000円	1,500円
単位あたり変動製造原価	1,400円	1,100円	900円
単位あたり変動販売費	220円	180円	100円
単位あたり機械加工時間	2時間	1.5時間	1時間
予想最大需要量	1,600個	2,400個	3,000個
期間中の固定費総額	2,000,000円		

- 1 営業利益を最大化する製品X、Y、Zの製造数量(最適セールス・ミックス)はいくつになりますか。それぞれ求めなさい。
- 2 最適セールス・ミックスのもとで得られる営業利益はいくらになりますか。求めなさい。

2

高等学校 商業科実技（問題）

（6枚のうち6）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

（答えは、すべて解答用紙に記入すること。）

- 7 企業の会計担当者として業務に従事していることとします。次の1・2に答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

2

高等学校 商業科実技 (解答用紙)

(1枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄	
1	1		
	2		
	3		
2	1	(1)	[%]
		(2)	[%]
		(3)	[%]
		(4)	[%]
	2		
3	1		
	2		
	3		
	4		
4	[%]		
5	1	月	[月]
		入金 合計額	[円]
	2	[円]	
6	1	製品X	[個]
		製品Y	[個]
		製品Z	[個]
	2	[円]	
7	1		
	2		